

# 寸言

古河電気工業株式会社  
取締役 兼 執行役員常務、  
営業統括本部長  
**杓谷 義雄**



## 古河電工 宇宙事業の展望

長年にわたり航空宇宙工業の発展にご貢献なさっている日本航空宇宙工業会に入会させて頂き、大変光栄に存じます。入会にあたり、関係者の皆様方のお力添えを頂きました。心より御礼申し上げます。

古河電気工業株式会社（以下、古河電工）の創業は1884年（明治17年）に遡ります。わが国に「電気」が伝わり、1882年（明治15年）に銀座でアーク灯が輝いた時代です。当時の世情を顧み、創業者の古河市兵衛は「日本を明るくしたい」との思いで電線の製造に乗り出しました。以来、弊社は、メタル、ポリマー、フォトリソ、高周波の4つの技術を核として、情報通信やエネルギーなどのインフラ分野、自動車部品分野、エレクトロニクス分野へ、多岐にわたる技術・製品・サービスを提供しています。

設立から139年が経った今、古河電工グループは「創業の思い」を未来へ繋げようとしています。「古河電工グループ ビジョン2030」は未来への道標。弊社は、「地球環境を守り」「安全・安心・快適な生活を実現する」ため、情報／エネルギー／モビリティが融合した社会基盤の創造を目指しています。そのためには、イノベーションによる新事業の創出が求められています。

弊社は、営業統括本部にソーシャルデザイン統括部を設け、お客様・市場・社会とのインターフェースであるセールス・マーケティング機能と開発・エンジニアリング機能を統合し、オープンイノベーションでスタートアップとも共創しながら、「インフラDX」、「ライフサイエンス」、

「宇宙」という3つの事業領域で新事業創出に取り組んでいます。

とりわけ、これまで地上の社会インフラ構築に携わってきた古河電工グループにとって「宇宙」は新たな事業領域です。弊社は、これまで開発してきた光ファイバやファイバレーザなどのフォトリソ技術、ヒートパイプなどの放熱技術、高周波パワーエレクトロニクスによる電源小型軽量化技術、設計・モノづくりの総合的な関連技術などを活かして、宇宙領域における機器の小型化や通信の高速化・大容量化に対応する新しいソリューションの開発・実装に取り組んでいます。

最初の試みは「人工衛星の小型軽量化・低コスト化」です。近年、低コスト・短期間で開発・製造できる小型・超小型衛星の利用拡大が期待されています。弊社は、衛星コンステレーション時代の到来に備え、JAXA殿と次世代ホールスラスト（電気推進機）用電源の事業化に取り組んだほか、東京大学殿と社会連携講座を開設し、小型・超小型衛星の開発・製造・供給体制を構築・強化し、競争力のある衛星サービスを生み出す基盤となるビジネスエコシステムの創出を目指しています。

弊社にとって宇宙ビジネスは未知の領域ですが、日本航空宇宙工業会への入会を機に、会員の皆様方との共創を通じて、わが国の宇宙ビジネスの発展に貢献したいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。